

## 令和5年度研修のまとめと令和6年度の研修について

《昨年度研究主題》 自分の思いや考えをもち、豊かに表現する子どもの育成  
～授業の個別最適化（ユニバーサル・デザイン）の視点に立った日々の授業実践を通して～

昨年度は、日々の学習実践を通して、授業の個別最適化（ユニバーサル・デザイン）の視点に立った指導方法や1単位時間内における児童の学びを深める学習展開や手立てについて、1年間取り組んできた。

昨年度の成果として、児童一人一人が主体的に授業に向かうための学習展開の工夫や手立てを図ることができたことが挙げられる。小規模校である本校の職員は、「どの児童も学ぶ目的を感じることができ、分かった達成感を得ることができるようにしたい」という思いをもって、日々の授業に臨んできた。具体的な取組として、ヒントカードや児童個別に作成されたワークシート、ロイロノートなどのICTの活用が挙げられる。これらの手立てを利用することで、児童一人一人が自分の設定した学習課題に臨んだり、自力解決を図ろうとしたりする姿が見られた。また、児童一人一人の学びを見取るために、研究授業の際には授業参観及び研究協議用シートを活用した。研究授業や授業研究を通して、児童の思考の流れやつまずき、児童同士の関わりなどを授業者に伝えることができ、その後の日々の学習指導に生かすことができた。1単位時間における「豊かに表現する」については、模擬授業で児童に深く考えさせる内容を焦点化することで、「児童が思考しやすい授業展開であったか」や「児童の理解が深まる問い返しであったか」を検討することができた。

課題としては、少人数指導における学習指導の充実である。令和6年度は複式学級が2、令和7年度では完全複式が予想される。令和5年度は6年生外国語科（単式）、1年生国語（単式）、3・4年生算数（複式）で研究授業を行った。6年・1年の研究授業では授業の個別最適化を、3・4年では複式学級における学習の進め方を視点に行った。本校の実態として、学力の差が大きいことが挙げられる。「児童が自分に合った学習方法を選ぶことができ、学ぶ目的を感じ、分かった達成感をもてる」という職員の思いが授業に反映され、どの児童も学習する意欲が向上するような「個別最適な授業」の実践を目指していく必要がある。

《令和6年度研究主題》 自分の思いや考えをもち、豊かに表現する子どもの育成  
～複式・少人数指導における授業の個別最適化の視点に立った日々の授業実践を通して～

研究テーマ及びサブテーマのイメージと手立て、目指す子どもの姿については、以下の通りである。

### (1) 「自分の思いや考えをもち」について

学習課題を通して、友達と互いの考えを伝え合い、自分の考えが伝わることや友達の考えが分かる楽しさを大切にしたい。そのために、必然性のある内容や課題の設定を工夫したり、児童に各学年における各教科の表現方法に慣れ親しませ、それぞれの方法のよさを理解させる必要がある。また、積極的に自分の思いを伝えようとする児童を育成するために、「友達に自分の考えを伝えたい」「友達の考えを分かりたい」という気持ちを高めさせることが重要であり、自分の考えを伝えることに自信をもたせたり、友達との関わり喜びを感じさせたりすることができる手立てを講じることで、児童が活動への満足感を覚え、積極的に自分の考えを伝えようとする。

#### 【目指す子どもの姿】

- ・学習課題に対して、自分の考えを形成できる子ども
- ・進んで考えや思いを伝え合い、伝え合うよさや楽しさを感じることができる子ども
- ・自分の考えを伝えたいという意欲をもっている子ども

## (2)「豊かに表現する」について

児童が、文章や具体物、図・表などの各発達段階に応じた表現方法を選び、積極的に自分の考えを表現しようとする姿を目指す。そのために、児童が各学年における各教科の表現方法を身に付け、それぞれの方法のよさを理解する必要がある。そして、伝え合う活動の中で、ICT 機器などを使用し、伝え方や表現の仕方よさを感じさせることで、豊かに表現をしようとする意欲の向上を目指す。

### 【目指す子どもの姿】

- ・学習課題に対して、自分の考えを分かりやすく工夫して形成できる子ども
- ・自分の考えを、友達に分かりやすく伝える工夫ができる子ども
- ・自分の考えを分かりやすく伝えたいという意欲をもっている子ども

## (3)「複式・少人数指導における」について

複式学級、少人数指導における「個別最適化」の視点に立った授業展開を図る。児童一人一人が自分の課題をもち、自分に合った解決方法や考えを表現する方法を選ぶことのできる学習を目指す。また、令和7年度から完全複式になることが予想されるため、「ガイドの役割」「ノート記述」などの複式学級における学習の進め方を検討し、令和7年度に向けて共通理解し、単式学級においても取り入れて学習を進めていけるようにする。

## (4)「授業の個別最適化の視点に立った」について

学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要となる。教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という教科ならではの物事を捉える視点や考え方である。特に、学習場面において、どの児童にも「思考しやすい授業展開であったか」や「適した学習課題であったか」「考えを形成できる手立てがなされていたか」「自分の力に応じた課題（適用問題や類似問題）が準備されていたか」などに重点を置き、進める。

テーマ研究以外で、R5年年度実施したい内容（アンケートより）

- 教科書変更に伴う教材研究と共通理解→各月1回程度。各自で行う。
- 特別支援教育と人権同和教育を年3回ずつ
- セクハラ・パワハラ等のハラスメント発生時の窓口の確認→4月職員会議又は4月研修で行う。

<他、昨年度実施した内容等>

### 【1学期】

- ・保健指導に関する研修
- ・防犯についての研修
- ・校内図画作品審査会
- ・水泳指導（安全面）
- ・通知表について

### 【夏季休業中】

- ・計算力テスト分析
- ・服務規律・勤務・労働安全衛生に関する研修
- ・人権同和教育に関する研修①
- ・作文合評会
- ・全国学力学習状況調査分析

### 【2学期】

- ・特別支援教育に関する研修①
- ・生徒指導に関する研修
- ・人権同和教育に関する研修②③

### 【3学期】

- ・計算力テスト分析
- ・鹿児島定着度調査分析
- ・標準学力調査分析